

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月13日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム大空		
所在地	旭川市永山2条21丁目2番12号 (電話) 0166-46-0031		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成20年3月10日	評価確定日	平成20年4月1日

## 【情報提供票より】(20年 2月 10日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤14人, 非常勤2人, 常勤換算10.4人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造準耐火構造造り 2階建ての ~ 1階部分		
------	---------------------------	--	--

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 1日 550円 暖房費(10~4月) 6,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 60 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(3月 10日現在)

利用者人数	18名	男性 7名	女性 11名
要介護1	1名	要介護2	5名
要介護3	2名	要介護4	7名
要介護5	2名	要支援2	1名
年齢	平均 80.8歳	最低 66歳	最高 96歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	木原循環器科内科医院、高畑整形外科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この施設は、幅広く福祉施設に力を入れている法人のもとで、運営者が思いを込め設立して4年目に入るグループホームです。平屋の建物で余裕のある空間が随所に見られ、利用者ものんびり、ゆったりと過ごされています。各居室も広く思い思いの使い慣れた家具や、親しみのあるインテリアで施された室内に安住の居室を覗かせています。管理者と職員が同じ思いを共有し、協働することで連携も取れています。行事やイベントを多く計画することで、利用者の生活に潤いや楽しさを提供し、職員も一緒になって学び成長している姿となっています。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目、権利義務の明示は契約書の追記されています。日々の記録については改善されていますが、鉛筆書きの書類がまだ既存しています。職員と同じ食事を一緒にすることは法人の体制が整備されていません。人員不足については、改善されています。第三者苦情窓口は明記され、事故報告書も作成されています。今回の評価と合わせ改善の取り組みに期待します。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員ともに評価の意義を十分に理解しているが、自己評価については全職員での取り組みではありません。しかし、今回の外部評価時には積極的に意見がだされ、協力的な対応となっています。今後は全職員が一緒に評価に取り組むことを期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>現在まで、運営推進会議の構成メンバーの参加体制は整備されていますが、開催には至っていません。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時には都度利用者の暮らしぶりや健康状態を報告しています。来訪できない家族についても事業所発行「大空だより」の配布や電話で報告しています。金銭出納も毎月家族に報告し、確認してもらっています。職員は家族に積極的な声掛けを行ない、意見・要望・不満を聞き受け止めています。内容については改善に向けて話し合い、サービスの質の向上を目指す取り組みが行なわれ、運営に反映されています。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入することでホーム行事に参加の呼び掛けを行ったり、町内のお祭りには天候を考慮して参加するなど、地域との交流が図れるように努めています。町の神輿行列などは、ホーム近くを通るように働き掛けを行ない利用者に楽しんでもらえるように工夫しています。今後も地域との係わりに力を入れる予定となっています。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、ホームの見やすいところに明示され、全職員に浸透し理念を実践するため日々努力されているが、制度改正に合わせた地域密着型サービスとしての理念の見直しや職員間での話し合いは行なわれていない。	○	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、住み慣れた地域での安心した暮らし、地域との関係性が継続できるようなホーム独自の理念を再度作りあげていくことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「ゆっくり、いっしょに、たのしく」の理念を合言葉に利用者のために何ができるかをいつも心に置き、職員間で共有している。また日々のケアサービスにおいても理念を実践し、話し合いも行なわれている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入することでホーム行事に参加の呼び掛けを行ったり、町内のお祭りには天候を考慮して参加するなど地域との交流が図れるように努めている。神輿行列などはホーム近くを通るように働き掛けも行なっている。今後も地域との係わりに力を入れる予定である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員ともに評価の重要性や意義を理解しているが、全職員で自己評価に取り組んではない。しかし、管理者間で作成された過程における気付き、今回の外部評価において指摘された項目については職員と一緒に検討するとのことである。	○	自己評価作成には運営者・管理者が意義やねらいを説明し、全職員で取り組むことがサービス向上や改善につながります。外部評価後会議などで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践につなげるための努力を期待する。

旭川市 グループホーム 大空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の構成メンバーについては、検討が行なわれているが、開催には至っていない。	○	運営推進会議は、地域への参加の働き掛けにより、外部の人の目を通じて事業所の取り組み内容や改善課題を話し合ったり、地域の理解と協力を得る貴重な機会となっています。早期に会議が開催されることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター職員が月1回来訪し、便りや情報提供、研修会の案内を頂くなど協力の関係は築いている。市の担当者とは、ホームとしての係わりや疑問点についての問い合わせは行なっているが、行政との積極的な連携にはまだ至っていない。	○	運営や現場の実情などを積極的に伝えたり、市から情報を提供してもらおうなど、市の担当者と意見交換を頻繁に行ない、協力関係を築かれることを期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には都度利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。来訪できない家族についても事業所発行「大空だより」の配布や電話で報告している。また、金銭出納についても毎月家族に報告し、確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に職員は家族に積極的な声掛けを行ない、意見・要望・不満を聞き受け止めている。内容については改善に向けて話し合い、サービスの質の向上を目指す取り組みが行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に抑えるよう努めている。法人内の移動はないが、止むを得ず異動があった際は管理者が中心となり職員配置に考慮し利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。管理者は職員への精神的フォローにも力を入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、人材育成の重要性を認識しており、年間計画を立て職員一人ひとりの知識や経験に応じた研修に参加する機会を設けており職員は積極的に受講している。受講後の内容報告の場もあり共有できる体制となっている。職員が利用者に関わる目標を立て、リーダーが評価できるしくみも作られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、管理者会議や各種研修に積極的に参加している。地域包括支援センターが主催するグループホーム見学会に参加し、交流を通してお互いのサービスの向上を目指している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族と面談し、また事業所を見学してからの入居となっている。利用者がすぐに馴染めない場合は、家族に連絡を取り情報収集したり、頻繁に来訪してもらったりして、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に理念を心掛け、散歩・畑仕事・ドライブなど利用者の希望に応じた対応を行なっている。また、介護の枠を越えて喜怒哀楽をともにし、利用者一人ひとりの尊厳を大切にしたいケアサービスを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との会話や行動・家族からの情報をもとに、一人ひとりの希望や意向を細部にわたり把握するよう努めている。また、自社独自のチェックシートを活用し、利用者の深い想いの把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を尊重し、毎日の個人記録をもとに職員でカンファレンスを行ない、介護計画を作成している。また、家族には利用者の現在の状態を説明し、意見要望を聞き計画に反映させている。しかし定期的見直しをもとに、ケアプランの作成がなく、同意には至っていない。	○	利用者や家族の意向を反映し、ケアプランが作成されます。その後の気付きや意見をもとに見直しながされますが、職員が計画書にもとづいた日々の記録が連動できるように研鑽と体制整備を行ない、利用者が「ゆっくり、いっしょに、たのしく」生活できるように取り組まれることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には期間更新時に介護計画の見直しを行なっている。また、利用者の状況や状態の変化が見られるときは、見直しを行ない、職員と話し合いながらケアに反映させているが、現状に即した新たな介護計画書の作成に至っていない場合もある。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況に応じ受診の支援、買物や外出、年間計画の中で遠出の行事への誘いなど、事業所で行なえるサービスを柔軟に行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望する医療機関への受診支援を行っている。受診後は結果を家族に報告し内容を記録している。また、看護師が配置され定期的健康管理が行なわれている。いつでも相談できる体制が整えられ、利用者や家族の安心に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針について本人・家族・医療機関を交えて話し合うことが共有されているが、終末に対する指針・意思確認書の作成や家族への説明同意が得られていない。	○	医療連携体制のもと、定期的な健康管理が行なわれており利用者や家族の安心のひとつとなっている。早期に終末に対する対応指針や意思確認書の作成、同意が得られる体制に努められたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を他言しないことなど、遵守事項として認識しており、職員は利用者のプライバシーを損ねることのない対応の徹底を図っている。また、個人情報が記載された書類は保管場所に整理されているが、日常の保管、面会簿の記載や広報誌、ホーム内の写真の掲示については同意が得られていない。	○	個人情報保護法の理解や情報の漏洩防止については、対人サービスに関わる者として注意深く扱う事が責務となっている。早期に法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られるよう期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活歴や体調を考慮し、このホームの理念である「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を常に心掛け、その人らしい生活が送れるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けなど利用者の力量に応じて職員と一緒にこなしている。また、利用者の希望や季節の食材を採り入れた献立を組み、楽しみとなるように支援されている。しかし、利用者と職員が同じ食事が取れる体制になっていない。	○	介護度の高い利用者が多くマンツーマンの体制で食事介助が行なわれている。利用者と職員が同じ食卓を囲み同じものを楽しく食べることを理解し、利用者と一緒に食事を楽しめる環境作りの検討が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じた入浴支援を行っており、健康状態に合わせてシャワー浴や足浴などの支援も行っている。夏場の暑い時期にはシャワー浴も随時行なわれており、利用者が気持ちよく過ごせるような配慮がなされている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や盛り付け、後片付けやおしぼりたたみなど、得意なことを活かした支援や、生活歴を活かした役割・レクリエーションなどの楽しみごとなど、利用者が日々の暮らしに張り合いや喜びを見い出せるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	リハビリを踏まえた日常の散歩や買物など、一人ひとりの希望に添った外出支援を行っている。季節の移り変わりに合わせ肌で感じられるようにドライブにも数多く出掛けている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が鍵を掛けない暮らしの大切さを認識しており、日中は施錠していない。利用者が外出しそうな様子には職員はさりげなく声を掛け、付き添うなど対応している。		

旭川市 グループホーム 大空

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、設備担当者指導のもとで、防火訓練を実施したり救急救命訓練を行ない、災害時に備えている。マニュアルも整備され、点検も行なわれている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分量・食事摂取量を個別記録しており、職員は情報を共有している。一人ひとりの嗜好や健康状態を考慮し、調理内容も工夫され、専門家による栄養バランスに配慮した献立になっている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々として明るく清潔感が漂っている。吹き抜けの天窓からは、溢れるほどの光が射し込み開放感がある。気になる匂いもなく音や光も適宜調節されており、利用者は思い思いの場所で寛がれ、居心地のよい空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染みの家具・仏壇・装飾品などが持ち込まれており、居心地よく過ごせる工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。